

高総発第1190号

平成20年10月14日

国土交通省道路局長 殿

高千穂町長 内 倉 信 吾



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け道企第37号で依頼のありました、標記の件につきましては別紙のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮崎県高千穂町

高千穂町に於いて住民が地元に住み続ける要素として、地域を維持し活性化を図る上でも、医療対策、伝統文化の継承対策、地域経済活性化の構築、地域社会活動(高千穂)の促進、災害対策等の必要がある。高千穂町が過疎化をくい止め、現状を維持していくためにも道路整備は必要不可欠であり、九州横断自動車道延岡線の整備等、住民生活に直結する道路整備を着実に進めて欲しい。

改善すべき点、要望や提案

- ・道路特定財源の一般財源化は、本来の目的を達する枠を確保した上で措置して欲しい
- ・高規格幹線道路の整備については、地方の意見を十分反映させるとともに国の責任において着実に整備して欲しい
- ・費用対効果算定方法の見直し
(時間短縮等経済性のみの視点でなく、地域を維持し活性化を図る上で救急医療、災害対策等中山間地域の実情を考慮して欲しい)
- ・地形などの地域状況を考慮した道路整備手法の確立(地方道路整備促進)
- ・効果の早期発現の為、ネットワーク化及び工期の短縮
- ・コスト削減を図る
- ・道路維持更新管理施策の充実
- ・生活や経済圏の広域化の為の道づくり対策

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

宮崎県高千穂町

○現状

九州山地の中央部に位置する高千穂町は、人口1万 5000 人弱の神話と伝説、名勝天然記念物の高千穂峡を有し、年間 100 万人以上の観光客を迎える観光地である。

道路交通網は、延岡市と熊本県宇城市松橋町を結ぶ国道 218 号、本町と福岡県久留米市とを結ぶ国道 325 号の 2 路線は地域の産業、経済、文化、観光振興及び地域住民の生活に欠かせない重要な幹線道路であり、県道は 9 路線、約 88km、町道については 313 路線、約 383 kmあるが高低差や起伏の激しい地形の中に位置し地形の一体化が阻まれて道路の整備は遅れており、台風などの災害にも脆弱である。

物流や人の流れに必要な交通流動性を確保する上では、航空、船舶、鉄道、バス、自動車といった幹線交通間の結節性が脆弱であり、移動手段が限定されることや都市圏からの時間距離が長いなどの状況にある。

公共機関の一つである TR 高千穂鉄道(延岡～高千穂間)は平成 17 年、14 号台風被災により平成 20 年に廃止される。

国土の均衡ある発展に欠くことのできない社会基盤である高規格幹線道路網の整備は大きく立ち遅れている。

○課題

国道 218 号、国道 325 号の道路状況は曲線部、急勾配区間も多く幹線交通間の結節性も脆弱な状況で、経済活動や人の移動における交通ネットワーク評価の面から著しく不利な状況にあり、コストや利便性などの面で資源を活かした地域の競争力が確保できないことが社会構造上の大きな課題である。今後の国土形成において、地域がめざす産業の強化や地域づくり戦略の展開の核となる幹線交通網の整備と流動性の確保が不可欠となっている。

地域の持続ある発展を実現するために

- ・九州横断自動車道延岡線の早期整備
- ・一般国道 218 号バイパスの早期整備
- ・地域の定住促進の為に県道、町道の整備
- ・現道路施設の維持管理対策
- ・ " " 更新対策

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

②-2 地域の目指すべき将来像

宮崎県高千穂町

山間地に位置する本町の活性化には、都市との交通ネットワーク確保は不可欠であり、阿蘇熊本空港を中心とした大分、宮崎等近接空港との連携、九州新幹線の全線開業などに合わせた鉄道交通結節も視野に幹線道路網を整備し、広域的互惠連携を図りながら地域が潤うための産業の創出や社会インフラの連携活用を視野に入れた生活圏形成を実現する。さらに、生活圏内の道路整備を充実し、医療、福祉を含めた生活サービス機能を確保するとともに、農林業産品を活かした付加価値産業の育成や都市との交流事業を振興するため、地域情報と交通機能が一体となった道路施策をめざす。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

宮崎県高千穂町

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 〃	九州横断自動車道延岡線の早期開通 一般国道 218 号のバイパス整備 県道の整備	・産業、経済、観光、文化などの活性化 ・高度医療対策 ・災害時の代替ルート ・地域間交流の連携の強化 ・社会活動の広域化 ・物流の効率化 ・環境保全 ・経費節減(1.5 車線の整備) ・交通安全の向上 ・地域間交流の連携の強化 ・地域社会の利便性の向上 ・物流の効率化	